

新飯能

発行 党
日本共産党
飯能市委員会
973-1091

江 101
子 40
と 64
し 10
江 10
山 72
9 73
新 97
9 78
滝 97
2 -3875

<議員団の連絡先>
973-2111(市役所416)
Mail jcp-sigi@pluto.plala.or.jp

天覧山・多峯主山周辺の自然を

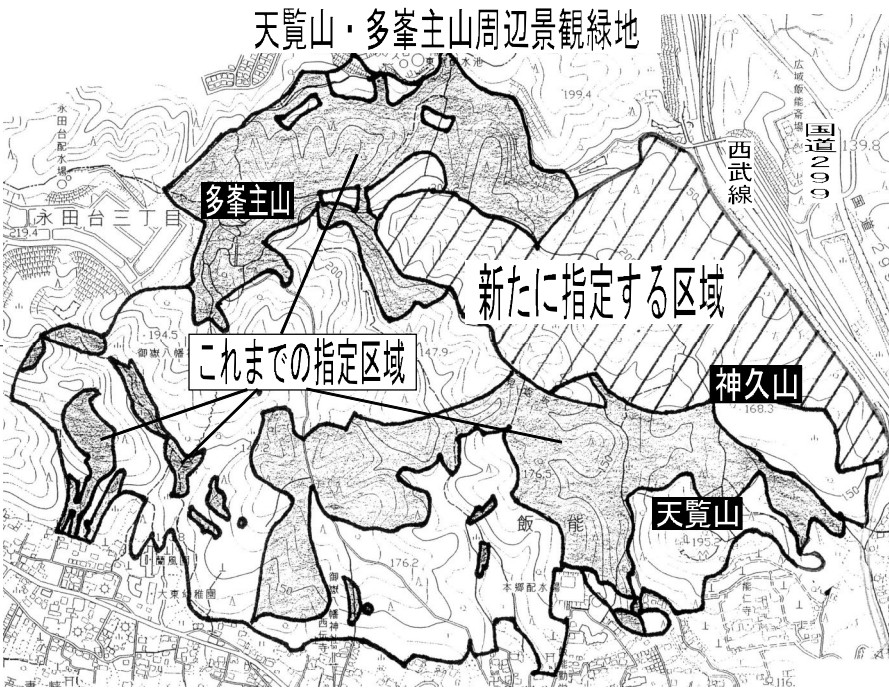
景観緑地として保全

十一月二二日の市議会
全員協議会で、西武鉄道
(株)が所有する、天覧
山・多峯主山周辺の二九
九バイパス西側の斜面、

約三二・八ヘクタールを、
飯能市として「景観緑地」
に指定し、保全していく
方向であることが報告さ
れました。

これは、一七年度決算
特別委員会最終日の総括
質疑の中で、金子敏江市
議の質問に答えたもので、
あらためて全員協議会に
正式に市の考え方を公表
したものです。

景観緑地の「指定」に
ついては、今後土地所有
者の承諾を得てから、
「はんのう市民環境会議」
と意見交換を行い「指定」
の手続きをしたいとして
います。このことは天覧
山・多峯主山周辺の開発
をストップしただけでな
く、自然がほぼ完全に保
全されることになり、積
極的な意味を持ちます。



自然を守る大きな
運動と日本共産党
が果たした役割
ふり返ってみると飯能

市は昭和五十年の第一次
総合振興計画(十万人)
の街づくりから第三次総
合振興計画(十二万人)
まで三十年間、西武や公
団(矢風・大河原地域の
丘陵)の大規模開発優先
の街づくりを一貫して進
めてきました。

この街づくりに対して
日本共産党市議団は当初
から、「この計画は大企
業の言いなりで市民無視
だ。飯能の貴重な自然が
破壊されるし、財政的に
も市民負担が増大する」
として、大規模開発を批
判し、開発計画の見直し
を求めて粘り強く奮闘し



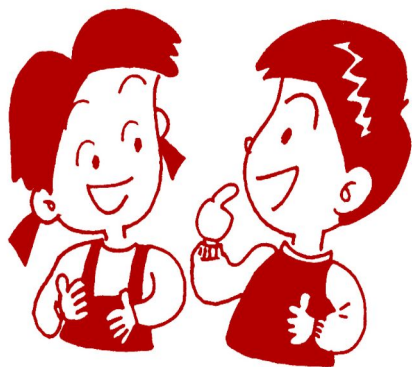
てきました。
このような中で「飯能
の緑と清流を守れ」とい
う大きな市民運動が二回
も広がりました。開発へ
の財政負担が増え、矛盾
も深まり、西武は開発を
断念、公団も当初の計画
を大幅に縮小することに
なったものです。

精明・学童クラブを 余裕教室で開設

市議会全員協議会に報告

十二月議会前の市議会
全員協議会が十一月二二

日に開催されました。



この協議会には、①地
方自治法が改正された
ことにともない、収入
役を廃止し、助役を副
市長に改め、一般職の
会計管理者を置く。福
祉部に市立病院の経営
改革を担当する「調整
監」を置く。保健セン
ターの健康づくり推進

担当副参事を独立させ、「健康づくり推進室」を新たに設置すること。②精明児童クラブ事業については、精明小学校の余裕教室を活用して、市の直営事業として学童クラブを設置する。そのため改修費用、人件費などを補正予算として計上していること。③企業誘致について、特定誘導地域(下川崎)に精密機械部品加工業、(従業員雇用二五名)の株式会社ワイティアイが新工場を建設することが決まったこと。④「桜の森」構想については、斎場前から宮沢湖までのハイキング道周辺とすること⑤庁舎別館の組織配置については、一階に生活安全課、商工観光課、市民参加推進課、農林課・農業委員会、二階には、教育委員会所管課と環境緑水課、エコツアーリズム推進室などが入る予定であること。⑥新光・双柳地区における地下水汚染では、椿本チェーンの他にニットー冷熱製作所が汚染源として特定され、浄化対策を講じていくことなど十三項目について報告されました。

波 紋

寒いです。ねと
いう挨拶が多
くなりました。
そんな中で美
杉台の寒桜の
話題や、知り
合いが畑に咲
いたといつて
届けてくれた
菜の花が心を
なごませてくれます。花
瓶にさした菜の花はそこ
だけぽつと春の雰囲気
です。ぬくもりはいいなと
思います。いじめや自殺
の背景には、受験だけを
目的にした過度の競争教
育があると聞かれています。
学校のほかに塾など
というものがある国は世
界でも珍しいのだという
記事も読みました。子ど
もたちは異常な世界で、
友だちより良い成績をと
らなければ「負け組」に
なってしまうと日々脅迫
されているのです。ぬく
もりなどとは無縁の世界
でストレスがたまるのは
あたりまえです。いじめ・
自殺根絶にむけての沢辺
市長と市教委の緊急アピ
ル。いじめ・自殺を克服
するきっかけになって欲
しいと思います。でも、
それには今の学校教育に
対する真摯な反省も必要
です。市長や市教委には
その覚悟があるのではし
ょうか。問われているのは
そのことです。

すぎのご保育園が 保育の充実を求め、 市と交渉

すぎのご保育園は、園長・保育士、父母の会代表者が市・こども家庭課と新年度予算について、要望と懇談を行い金子敏江市議が参加しました。

「飯能市では、公立保育所の民営化が検討されている」ということですが、経費節減を目的にした民営化は、『保育の質』の低下につながるのではと心配。建物ならリフォームできるけれども子どもはそうはいかない。人格の基礎を築く幼児期にお金をかけてほしい。名実ともに『子育てするなら飯能市』といえるように

してほしい」と挨拶しました。続いて、要望書をもとに懇談しました。障害児加配について

現在障害児二名（五歳児、二歳児）は一日にわたり大人の援助が必要ですが、国・県の補助金が保育士半日分の人件費しかつかないので、実態に見合ったものにしてほしい。障害児の担任をしている高橋さんは、「実際に保育現場を見に来てほしい」と強く要望しました。

職員給与調整費補助金の増額を

平成一六年に県の補助金「職員処遇改善費」がカット。



その後一七年だけ市単独で補助金をつけましたが、一八年には廃止。「経験年数が長くなればなるほど公務員との給与格差は

大きくなるばかり。職員給与調整費補助金を増額してほしい」と求めました。



早急に住民の望む 下水道の整備を

下水道審議会開かれる

飯能市の下水道処理は昭和四一年から始まりましたが、普及率は未だに五八・八%にとどまっています。入間市や狭山市は市で処理施設を持たず荒川右岸流域下水道を利用し整備を進め、飯能市より後から始めたにもかかわらず、狭山市九〇・



架け替え予定の阿岩橋

保育料を引き下げ保護者の負担軽減を

保護者会会長の小林さんは、「同じ所得階層でも入間市の方が保育料が月額八千円位低い。これは保育料の基準表を所得階層別にきめ細かくしているからで、飯能市も同様にしてほしい」と要望しました。

四%、入間市八四・七%と高普及率となっており、進捗の思わしくない下水道整備や今後の下水道施設などについて協議を行う、第二回の下水道審議会が二二日開かれました。当面の整備スケジュール、十九年度の工事予定、老朽化した浄化センターの再構築問題などが議題となりました。

当面のスケジュールでは特に区画整理地内の整備予定が協議され、阿岩橋の架け替えと下水道管の敷設方法、阿須ポンプ場の容量アップなどの諸問題をどのように解決して行くのかが大きな話題

最低保障年金制度を

年金者組合が市と懇談

年金者組合飯能支部（野尻一夫支部長）は十六日、市内の年金生活者の実態や税の軽減措置などの問題で市の担当者と懇談しました。「飯能市の国民年金受給額の平均は、月額六万二千元（月額約五万二千元）、厚生年金では、九万九千四百円（月額約八万三千元）



「今まで色々お知らせしているのですが、今回は税源移譲について、お知らせしたものと増税については全く含んでいないことを認めました。最後に「最低保障年金制度を国に求めてほしい」と要望しました。

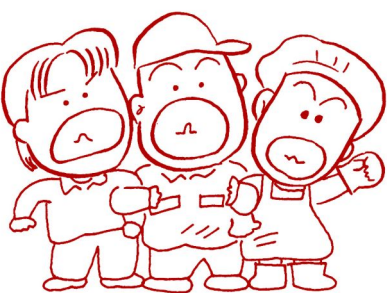
うたごえ喫茶

平和の願いを
歌声にこめて

12月2日（土）
午後2時～

日高市・カフェ阿里山
（きんちゃく田近く、県道沿い）
*準備の都合上、事前にご連絡を。

参加費：800円



主催：奥武蔵文化9条の会
989-4475（外川）973-7303（佐藤）
42-361-6296（河野）